２０１６年　活動指針

～足利市サッカー協会創立５０周年にあたり～

会長　勝 沼 春 彦

我々足利市サッカー協会は、その創立以来５０年、「普及と育成、強化」を活動の根幹に置いてきました。そして次の５０年も、これまでの活動を継続、熟成させ、結果として目に見えるものを実現させたいと考えています。

我々の大きな目標の1 つに、日本で、そして世界で躍動する選手を当地足利から輩出することがあります。そのために必要なこととして、次の３本の矢を掲げたいと思います。

①「普及活動」の強化・推進

～底辺の拡充と、サッカーの市民スポーツ化を目指して～

富士山が広大な裾野を有するように、高い頂は必ず広大な裾野のもとに生まれます。競技も同様です。多くの市民がサッカーに興味を持ち、サッカーと関わる。サッカーが市民に受け入れられるスポーツとなり、誰もが自然とボールを蹴り始める。このような状況ができて初めて、頂となる選手が生まれることは自明でしょう。

その実現ために、広くサッカーを市民に認知してもらう活動を継続させていきたいと考えています。

②「普及」を受けての「育成、強化」、そしてサッカー環境の整備

～ サッカー専用グラウンド（人工芝グラウンド）の建設 ～

各部、各委員会の継続的なご尽力により、幼年、少年、女子の育成が進み、それが中学、高校へと引き継がれ、強化の実績が生まれつつあります。しかし今後さらなる実績を積み上げるためには選手の育成とともに、指導者、審判を育成していく必要があります。

「選手の育成」と「指導者、審判の育成」は車の両輪です。協会が主導して、このことを実践していきます。

また、選手を「育成、強化」していく上で最も重要なこととして、サッカー環境を整備していく必要があることは言うまでもありません。しかしながら足利市のサッカー環境は、近隣の佐野、桐生、太田の各市と比べても甚だ脆弱であり、栃木県内でもワーストに近い状況にあることは皆さんご承知の通りです。幼年、少年時代から育ってきた選手をさらに強化するためにも、サッカーを生涯スポーツとして社会人世代に根付かせる為にも、最早サッカー専用グラウンドと人工芝のグラウンドは欠かせないものとなっています。

サッカー専用グラウンドの建設は我々足利市サッカー協会の悲願です。その実現には多くの資金と人力が必要となります。とうていサッカー協会のみで賄えるものではありませ

ん。行政を始め、地元経済界の協力を得なければその端緒につくこともできません。そのためにはすべてのサッカー協会員が共通の目標をもたなければなりません。様々な意見があることは承知しておりますが、「キッズカーニバル in 足利」はそのために企画・実施し
ているといっても過言ではありません。同イベントを通じて足利市当局との関係を密にするとともに、地元の諸企業にサッカーに関心をもってもらう、足利市の経済界に当協会の活動をバックアップしていただけるような活動を続けています。そしてその上でその先に

ある「サッカー専用グラウンド」の建設につなげたいと考えています。

③「組織」の活性化

～ 行動企画の策定と人材の育成 ～

我々には壮大な目標があります。そのためにはしっかりとした当協会のバックボーンの下で各々のチームが主体的に活動を行うことが不可欠です。当協会所属のチームが安心して活動できるようにするためには、専門部や委員会、事務局等の連動が必要です。それらの連携が速やかに行われるためにも、他人任せではなく全員が自らの責務と考え行動していかなければなりません。そのために不可欠なのが目標を明確とした行動計画の策定です。短期の目標、その先にある中期、長期の目標を明確にし、その上で行動計画を策定する。そうして初めて各員が自分の行動に責任を持ち、意義を見いだすことができます。

そしてそれらの活動を通じて、専門部、委員会、事務局等、各々の活動を通じて人材の掘り起こしを行いつつ、スペシャルな人材を育成し、常にスムーズな世代交代をおこなうことが可能なシステムを構築していきたいと考えています。

我々には次の世代に引きわたさなければならない壮大な目標があります。これらのことを実践し、この５０年のうちにそれらの目標を実現します。

その上で、「チーム同士」「選手と監督、コーチ」「サポーター同士」「選手と審判」互いにリスペクト（理解し、尊敬する）しあえる協会作りを目指します。これには長い時間がかかると思いますが、これがなしえて、初めてサッカーの環境作りと言えるでしょう。

これこそが、足利市サッカー協会の「１００年構想」です。